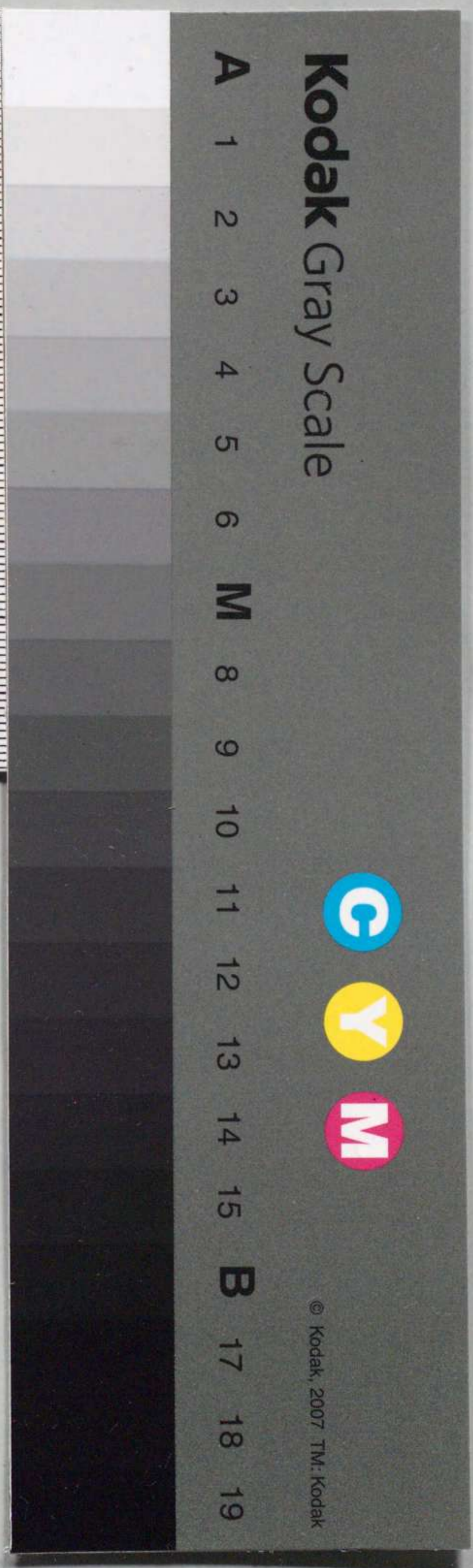


勅令第十一号

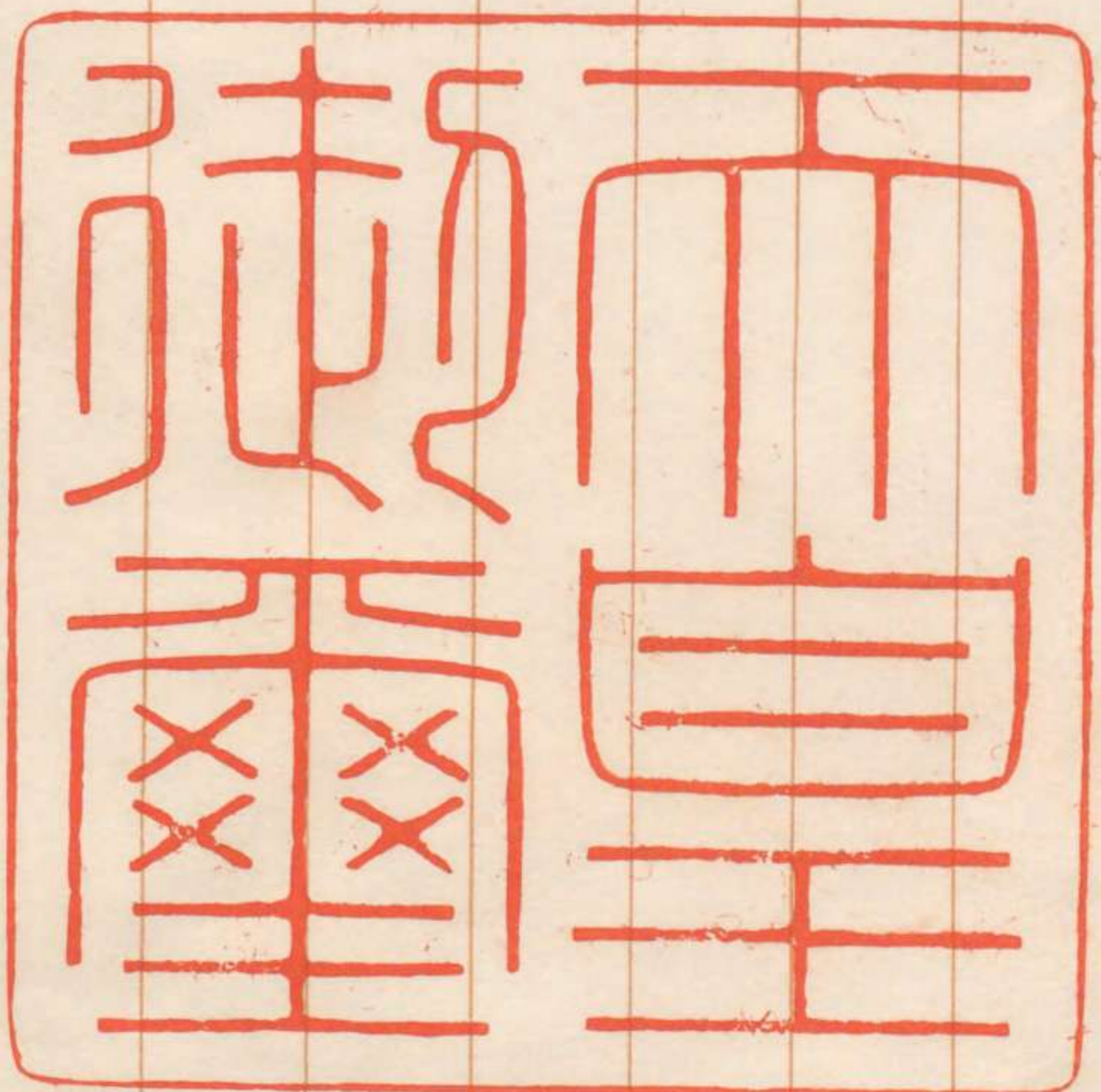


所ニ依ルヘシ  
スルノ時期ハ  
院令ヲ發布ス  
リ樞密顧問ノ  
朕大日本帝國  
憲法ノ明文ニ  
依テ貴族  
ヲ經テ  
勅令ヲ  
實施ス  
ル  
此ノ  
力更ニ  
命スル





睦仁



明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆  
 樞密院議長伯爵伊藤博文  
 外務大臣伯爵大隈重信  
 海軍大臣伯爵西郷從道  
 農商務大臣伯爵井上馨  
 司法大臣伯爵山田顯義  
 大藏兼内務大臣伯爵松方正義  
 陸軍大臣伯爵大山巖  
 文部大臣伯爵小杉有作  
 遞信大臣子爵榎本武揚



勅令第十一號

貴族院令

第一條 貴族院ハ左ノ議負ヲ以テ組織ス

一 皇族

二 公侯爵

三 伯子男爵各其ノ同爵中ヨリ選舉セ

ラレタル者

四 國家ニ勲勞アリ又ハ學識アル者ヨ

リ特ニ勅任セラレタル者

五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ

付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中



ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタ  
ル者

第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキ  
ハ議席ニ列ス

第三條 公侯爵ヲ有スル者滿二十五歳ニ  
達シタルトキハ議負タルヘシ

第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二  
十五歳ニ達シ各其ノ同爵ノ選ニ當リタ  
ル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議負タルヘ  
シ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以

テ之ヲ定ム

前項議負ノ數ノ一ヲ超過スヘカエ  
爵各總數ノ五分

第五條 國家ニ勲勞アルハ學識アル滿  
三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セラレタ  
ル者ハ終身議負タルヘシ

第六條 各府縣ニ於テ滿二十歳以上ノ男  
子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ  
直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一  
人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタ



ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタ  
ル者

第二條 皇族ノ男子或ハ二十ニ達シタルトキ  
ハ議席ニ列ス

第三條 公侯爵ヲ有スル者滿二十五歳ニ  
達シタルトキハ議席ニ列ス

第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二  
十五歳ニ達シ各其同爵ノ選ニ當リタ  
ル者ハ七箇年  
以テ議負タルヘ  
シ其ノ選舉  
ハ別ニ勅令ヲ以

テ之ヲ定ム

前項議負ノ數ハ伯子男爵各總數ノ五分  
ノ一ヲ超過スヘカラス

第五條 國家ニ勲勞アリ又ハ學識アル滿  
三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セラレタ  
ル者ハ終身議負タルヘシ

第六條 各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男  
子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ  
直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一  
人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタ



ル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議負タルヘ  
シ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以  
テ之ヲ定ム

第七條 國家ニ勲勞アリ又ハ學識アル者  
及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付  
多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セ  
ラレタル議負ハ有爵議負ノ數ニ超過ス  
ルコトヲ得ス

第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族  
ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

第九條 貴族院ハ其ノ議負ノ資格及選舉  
ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規  
則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ  
裁可ヲ請フヘシ

第十條 議負ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セ  
ラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者ア  
ルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ  
貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者  
ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ  
除名セラレタル議負ハ更ニ勅許アルニ



非サレハ再ニ議負トナルコトヲ得ス

第十一條 議長副議長ハ議負中ヨリ七箇

年ノ任期ヲ以テ勅任セララルヘシ

被選議負ニシテ議長又ハ副議長ノ任命

ヲ受ケタルトキハ議負ノ任期間其ノ職

ニ就クヘシ

第十二條 此ノ勅令ニ定ムルモノ、外ハ總

テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條 將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ

又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經

ヘシ



相  
密  
院